



君の世界に芽生えるものは

くおんじゅく

久遠塾

vol. 56

久遠塾 ☎ 080-2182-1379 13:00~21:00
メールアドレス shiranuka.kuon@gmail.com

久遠塾 塾長

みなぞえ えいじ
皆添 英二

交流事業をサポート

12月4日、白糠高校の全校生徒と国際協力機構（JICA）の研修員との交流事業が開催されました。研修員はエチオピア、ケニア、タンザニア、ジブチ（2人）の掘削技術者5人。町内にある学校法人ジオパワ1学園「掘削技術専門学校」での研修に合わせて、学校を訪問していただきました。



1年生のランゲージバスケットでは、久遠塾のスタッフやJICA職員も加わりました。

交流事業は学年ごとに行われ、1年生は研修生各国のあいさつを使ったゲーム「フルーツバスケット」ならぬ「ランゲージバスケット」、2年生は「折り紙」、3年生は「書道」で交流を図りました。

交流事業はすべて英語を使って行われ、久遠塾の中川講師が全体進行中に随時通訳に入るなど、サポートを務めました。生徒は、身振り手振りを織り交ぜながら意思疎通を図ろうと努力していました。普段の生活では得られない貴重な体験になったと思います。

霧多布中学校で防災講話

12月5日、浜中町立霧多布中学校

でPTA研修会「防災講話」が開催されました。その講師として、久遠塾スタッフで石巻市出身の柴澤講師と、一関市出身の中川講師が招かれました。きっかけは、8月18日付け釧路新聞の一面に掲載された、二人のインタビュ記事が霧多布中学校の沼田卓二校長先生が目にしたことです。二人とも東日本大地震発生当時、東北地方で被災した経験がありました。

浜中町は、市街地が海に囲まれていることから、過去に何度か津波によって甚大な被害を被ってきました。そうした災害後、17kmにおよぶ防潮堤が建設されるなど、防災・減災意識の高い町ではありますが、今後、東日本大震災級の地震が発生した場合、最大で34m級の津波がくると予測されてからは、今まで以上に防災・減災意識の高揚に努めています。

PTA研修会では、約40分にわたって柴澤講師と中川講師の二人が東日本大震災の体験談などを話しましたが、研修会には生徒も参加していましたが、生徒たちは東日本大震災当時0〜2歳だったので、覚えている人は一人もいませんでした。そのため、体験談では「いかに東日本大震災が酷かったか、どんなに恐ろしか



「今日の東日本大震災の体験談を忘れず、防災意識を高めてほしい」と話す柴澤講師。左は中川講師。

ったか」ということを伝えました。参加した生徒からは「災害の恐ろしさや悲惨さを知りました」「地震の後は津波が来ることを考えて、いち早く逃げるようにします」など、たくさんの感想をいただきました。講演を終えた柴澤講師と中川講師は「これまで白糠高校で防災講座と授業を行ってきましたが、町外の方にも直接お話をさせていただく機会をいただき大変光栄でした。自分たちの体験談を通じて、防災意識の向上につながればうれしいです。つらい経験をする人が一人でもいなくなるよう、これからも講演の依頼があります」と話していました。